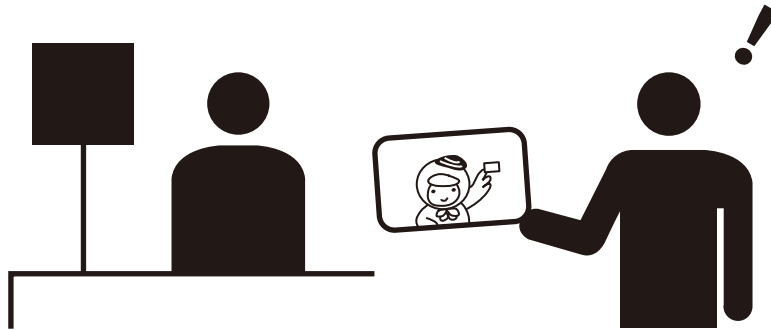


「とまチョップ・アート&カルチャーポイント」 施設への来訪を促すポイントサービス



事業内容

無目的利用を促すために重要なのは、文化芸術活動に関心が薄くともまずは施設に来てもらうためのきっかけづくりです。「とまチョップ・アート&カルチャーポイント」は、現在市で実施しているとまチョップポイントと連携したサービスです。とまチョップポイントは、市が主催する事業・イベントへの参加や公共施設の利用でポイントが貯まるサービスです。新たな施設でも、コンサートや公演を鑑賞した際や、各種練習やイベント参加時にポイントが貯まることはもちろん、例えば施設に来訪したことを SNS(ソーシャルネットワークワーキングサービス) に告知するとポイントが貯まるなど、施設来訪のきっかけとなるサービスを提供していくことを目指します。

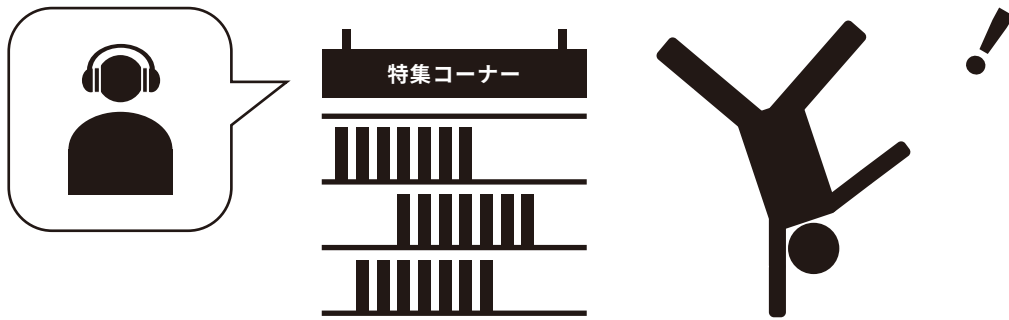
実施することで得られる効果・可能性

文化芸術活動に関心の薄い市民の来訪

実現する上での課題

とまチョップポイント事務局との連携
ポイント獲得の条件設定

「週刊おすすめリレー」 市民による市民のための情報発信・交換サービス



事業内容

施設を訪れてはじめてできる体験や、その場所に行ったからこそその気付きがあると、またそこへ訪れたいくなるものです。新しい施設では、市民がふらっと施設へ訪れたときにいつでも新しい情報を得ることができ、新鮮な発見に満ちた場所を目指すことが重要です。「週刊おすすめリレー」は、市民が他の市民に届けたい情報を週替わりで発信していく独自の情報発信サービスです。例えば、ヒップホップが好きなDJがダンスに最適な音楽を紹介するコーナーを設けたり、読書が好きな市民がクラシック音楽に関連する本を紹介したりします。市民から市民へとその人独自の視点にもとづいた情報を伝えていくことで、施設への来訪を価値あるものにしていきます。

実施することで得られる効果・可能性

施設の来訪機会の提供・リピーター創出
機能間での連携・相乗効果

実現する上での課題

情報発信を行う市民の存在

「週末マルシェ de ライブ」

苫小牧産の食材と市民の文化芸術活動が会うマルシェ



事業内容

施設の外部空間は、文化芸術活動に関心の薄い市民にとっても気軽に訪れることのできる、無目的利用を促すために重要な場所といえます。「週末マルシェ de ライブ」は、外部空間で行う文化芸術活動への気軽な参加を目的とした無料のイベントです。週末のお昼時に市内の農家や漁師が出店するマルシェとともに行うコンサート、バレリーナの週末ランチを食材とともに紹介するコーナーなど、文化芸術活動に関心のない市民が気軽に足を運び、市民が丸一日施設とその周辺で過ごしても飽きることはない新鮮で臨場感のある充実した内容のイベントを目指します。

実施することで得られる効果・可能性

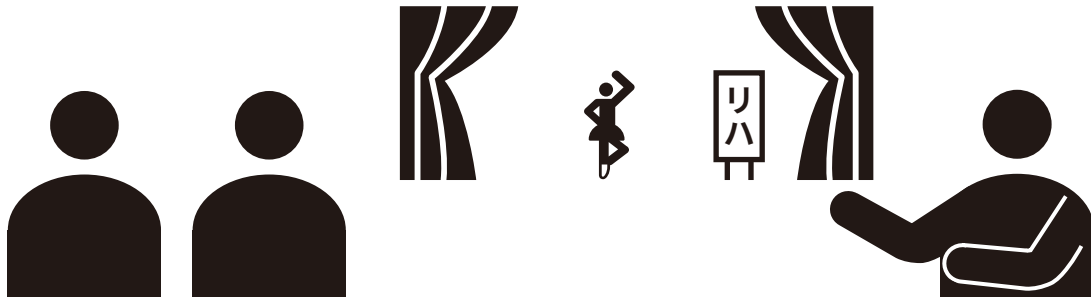
文化芸術活動に関心の薄い市民の来訪
市内食材の販売促進

実現する上での課題

市内の農家・漁師とのネットワーク構築の必要性
周辺住民の理解・協力

「あなたに魅せる公開リハーサル」

練習やリハーサルを公開し施設での活発な活動に見える化する取組



事業内容

施設の活気やにぎわいはその施設の雰囲気づくりを担う貴重な要素です。そのため、新しい施設では、これまで会議室や研修室といった壁で閉じられた諸室で行われていた活動をオープンに見せ、訪れた市民がその魅力を常に感じる取組が重要です。「あなたに魅せる公開リハーサル」では、演劇やダンス、コンサートなどのリハーサルや練習の様子が公開されており、立ち寄った市民は自由に見学し、その感想や意見を伝えることができます。また、施設を訪れた市民が窓口に声をかけることで、各諸室で行われている活動を体験・見学することができます。これらの取組により、市民は常に施設の活気を感じることができ、一方の文化芸術団体にとっては本番前に市民からのフィードバックを受けたり、団体への新たな参加者を増やしたりすることにつながり、双方にとって win-win の関係を築くことができるものとなります。

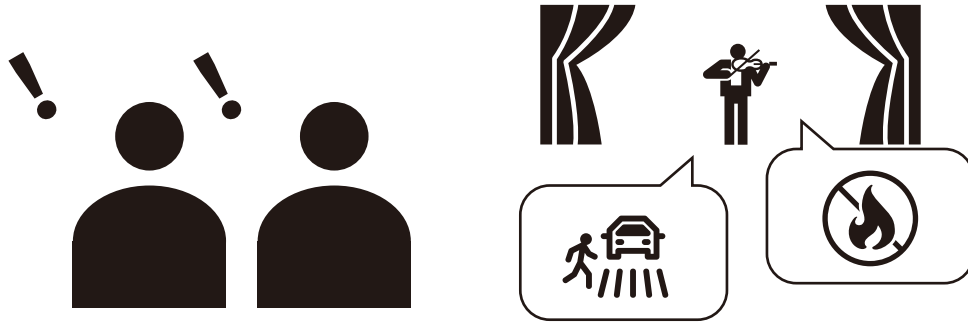
実施することで得られる効果・可能性

施設のにぎわいや活気の創出
気軽な文化芸術活動への参画機会の提供

実現する上での課題

公開する活動内容や仕組みの検討
文化芸術団体とのネットワーク構築の必要性

「NO MORE 交通事故キャンペーン」 交通安全などの啓発活動を文化芸術団体が担う試み



事業内容

交通安全や火災予防などの啓発活動は、日常的に接することでの効果的な周知が求められます。そこで、施設を利用する文化芸術団体にコンサートや公演の前に啓発活動をしてもらうことで、その普及を促進します。啓発活動を行った団体には、利用割引や施設で使えるクーポンが得られるなどの特典を設けます。啓発活動はこれまで交通安全センターや警察などの公的機関、あるいは町内会や意識の高い市民の有志が担ってきました。しかし、このキャンペーンでは、意識の高低とは関係のない市民が啓発活動を担うことで当事者意識が生まれます。結果的に、啓発活動を行う市民、それを目にする市民の双方を啓発することができる一石二鳥の事業になります。

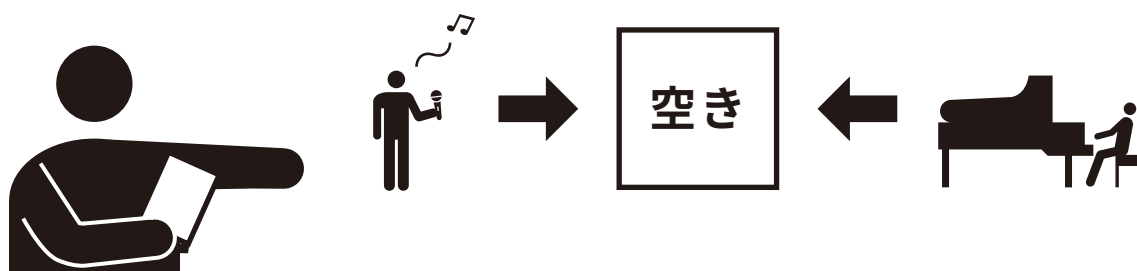
実施することで得られる効果・可能性

既存の啓発活動の普及・発展
施設の利用促進

実現する上での課題

賛同者・スポンサーの確保

「空き部屋活用不動産」 施設の空き室を管理し、新たな利用を促す運用サービス



事業内容

どんなに施設の運営やマネジメントを工夫したとしても、予約が入らない空きの諸室は出てくるものです。「空き部屋活用不動産」は、生じてしまった空きの諸室を活用したイベントを考える組織です。これまでの利用履歴や文化芸術団体との日常的なやりとりなどを参考に、空いた諸室をうまく活用してくれそうな団体に企画を持ちかけることでイベントを実施していきます。例えば、音楽練習室が空いた際に、カラオケサークルとピアノサークルに相談し即興のリサイタルを企画するといった具合です。この活動は、単なる空き諸室の解消にとどまらないサークル間の連携や相乗効果を促すことも目的としています。

実施することで得られる効果・可能性

稼働率の向上

文化芸術団体間での連携・相乗効果

実現する上での課題

イベントを企画するディレクターの人材確保

文化芸術団体のネットワーク構築の必要性

「お手軽文化講座」

アマチュア市民が講師を務める多世代交流・文化継承プログラム



事業内容

楽器の練習やダンスのレッスンなど、文化芸術活動には日々の訓練が必須であり、またそれらにより得られた技術は経験者から未経験者へと引き継がれていくものです。「お手軽文化講座」は、楽器やダンスなどのスキルを持った市民が格安でレッスンの機会を提供する講座です。この講座では、これまでアマチュアのプレイヤーとして活躍してきたお年寄りの演奏者が市内の小・中学生に楽器演奏を指南するなど、日常的には接点の少ない世代が文化芸術を通じてコミュニケーションすることも考えられます。また、資格を有していなくても、長年趣味として続けてきた活動を次世代へ紹介し、伝えるレッスンを市民が格安で開催することで、文化芸術活動に敷居を感じている市民に対しても気軽な参加を促すことができます。

実施することで得られる効果・可能性

文化芸術活動の気軽な参加機会の提供
世代間交流の促進

実現する上での課題

講座の価格帯・資格等の仕組みづくり
講師を希望する経験者の存在

「なかま to ナカマ」

新しい施設での仲間づくりと活動を支えるクラウドファンディング



事業内容

コンサートを開きたいが資金が足りない、バンドを結成したいがメンバーが不足しているなど、実施したい事業があっても実現しない場面はよくみられます。「なかま to ナカマ」は、市民からやってみたいことを募集し、それらの活動への賛同者を募り実際に共用空間で実施する市民参加型の活動です。例えば、資金難で実現できなかったコンサートを共用空間で実施したり、メンバーが揃い結成がなかったバンドの初ライブを共用空間で行ったりします。クラウドファンディングは、誰かの企画に対して賛同者が資金を提供することで成り立っていますが、ここでは、資金に限らず人材、アイデア、技術なども募集します。ただし、実現がなかった事業は必ず共用空間を使ったイベントを行うという制限を設け、こうすることで新しい施設が仲間づくりや活動の拠点となり、共用空間を常に一定のイベントが行われる空間とすることができます。

実施することで得られる効果・可能性

文化芸術活動数の増加
共用空間のにぎわいや活気の創出

実現する上での課題

クラウドファンディングの仕組みづくり